

「もっと響く指導」に 生きたデータの徹底研究 するために!

「データ」を活用して客観的に生徒の状況を捉え、指導の方針を整理する方策を2006年から12年まで伝えてきた「生きたデータの徹底活用」のコーナー。更に響く指導を実現するために、これまで掲載した記事を基に現場の先生方と改めて指導のポイントを確認し、「データ」の改良を検討します。

テーマ 1年生夏休み明けの意識付け



「生きたデータ」2007年9月号を参考に、夏休み後の生徒把握を行ったところ……

●チェックリスト



A 夏休み中の生活チェックリスト (生徒用) 夏休み明け直後のホームルームなどでチェックさせる

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 夏休み中は週5日以上家庭学習に取り組めなかった | <input type="checkbox"/> 夏休み中の目標学習時間が達成できなかった |
| <input type="checkbox"/> 夏休み前後で生活習慣が変わった | <input type="checkbox"/> 生活習慣が夜型に変わってしまった |
| <input type="checkbox"/> 夏休みを振り返って、満足できる点、不満だった点が整理できていない | <input type="checkbox"/> テレビやインターネットの時間が増えてしまった |
| <input type="checkbox"/> 家族と進路について話をしていない | <input type="checkbox"/> 趣味にも打ち込めず、怠惰な時間を過ごした |

B 夏休み後のチェックリスト (教師用) 9月中にクラスを見回して各生徒の様子を観察する

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 上記チェックリストで、多くチェックが入っている | <input type="checkbox"/> 授業中に集中できなくなった、居眠りをするようになった |
| <input type="checkbox"/> 遅刻・欠席が増えた | <input type="checkbox"/> 髪型、服装に変化(茶髪、パーマ、制服の着崩しなど)が見られる |
| <input type="checkbox"/> ホームルームなどでうつつむき気味(夏休み前との変化) | <input type="checkbox"/> 部活動をやめた |
| <input type="checkbox"/> 夏休みの課題が未提出 | <input type="checkbox"/> 月曜日に休みがち |

私の狙い

生徒の夏休み中の生活・学習習慣の実態を教師、生徒自身がチェックし、振り返ろうとした

取り組み内容

夏休み明けにチェックリストを活用し、生徒の変化を見逃さず対応していこうとした

感じた課題

チェックは行ったが、数値化し、定量的に分析して指導することまでは出来なかった。また、生徒は出来ないことが多い割には、挽回の気持ちをあまり持とうとしなかった

「もっと響く指導」のポイント

①

「出来た感」を意識させながら、1学期・夏休みを振り返らせる



1年生の夏休み明けから秋にかけては、その後の成績推移に大きな影響を与える時期です。私もこれまで、夏休みを振り返らせて9月の中だるみを防ごうとしてきました。しかし、夏休み中の「出来なかったこと」や夏休み明けの「出来なくなってしまったこと」は明らかになっても、それが生徒の中で「改善しよう」という意欲につながっている手応えがありません。「これから何をすべきか」を明確にさせたいのですが……。



夏休み明けから学習習慣が乱れる生徒は、確かに少なくありません。同僚の先生の中には「夏休みがなければいいのに！」と半ば本気で言う人もいますよね。入学直後から夏休み前まで、私たちは生徒を細やかに指導し、学習習慣を身に付けさせてきました。それが教師の手を離れる夏休みを経て、変化が生じるのは当然のことと言えます。私たちは、高校3年間を通じて主体的に学ぶことが出来る生徒を育てようとしており、生徒が出来るようになったことを確認しながら、少しずつ手を離していかなければなりません。そこで、「夏休みに教師の手を離れても、高校生として出来ていることは何か」という視点で、自分の成長を確認することから始めてみてはどうでしょう。



確かに1学期は、学習面でも段階的に生徒を引き上げてきました。夏休み明けにどの段階まで維持できていて、どこから再スタートすればよいかを把握できるとよいですね。

*このコーナーは、高校の先生方(今回は関東・中国・四国地方)との検討会の内容を基に構成しています。

若手先生代表

四国地方の公立高校に勤務。14年度は2回目の1学年担任。



A先生(30代)

中堅先生代表

四国地方の公立高校に勤務。14年度は1学年主任を務める。



B先生(40代)



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」活用改訂案

●チェックリスト



	第1段階	第2段階	第3段階
学習	「学習時間ゼロ」の日をなくす	家庭学習の開始時間を一定にする	教科バランスを考えて学習する
	④ できている	④ できている	④ できている
	③ ほぼできている	③ ほぼできている	③ ほぼできている
	② あまりできていない	② あまりできていない	② あまりできていない
	① 全くできていない	① 全くできていない	① 全くできていない
		夏休み前	夏休み後
生活	午前8時20分までに登校	できた できなかった	できている できていない
	授業開始5分前に着席	できた できなかった	できている できていない
	提出物の期限の厳守	できた できなかった	できている できていない
	ケータイ・スマホ使用時間の管理	できた できなかった	できている できていない
	朝型の生活	できた できなかった	できている できていない
部活動	テーマを持って練習に取り組む	できた できなかった	できている できていない
	仲間と話し合い、練習を改善する	できた できなかった	できている できていない

「もっと響く指導」のために
改訂すると……



まず、学習面では本校の場合、1学期では「学習時間ゼロの日をつくらない」からスタートし、学習習慣の質を上表のように3段階で高めようとしてきました。学習状況調査や面談などを通して、1学期には多くの生徒が達成できていたことは確認済みです。そこで、夏休み明けに「1学期に積み重ねてきた3段階のどこまでを維持できているか」「再スタートするのはどの段階か」を本人にチェックさせてみたいと思います。



出来ていることと出来ていないことを整理し、「出来ていることもある」ということを自覚させられれば、自己肯定感を保ちながら、更に上の段階を目指して、自律的に学習習慣を改善することが出来そうですね。学習面だけではなく、生活面でのチェックも出来ればいいですね。



生活習慣や部活動については、1学期を通じて大切にしてきたことをリスト化し、「夏休み前と夏休み明けで出来ていることが変わったか」を確認させてはどうでしょうか。チェックした項目を比較することで、夏休み明けの生活習慣の乱れが具体的に把握できれば、夏休み明けからの学習習慣の乱れの原因が生活面の変化にあることが分かるかもしれません。学力の土台には、自律的な生活習慣や充実した部活動があることを伝えられるとよいですね。

プラスαの検ポイント
From 編集部

夏休みまでの
指導の段階を
学年団は
言語化できるか？

今回の記事の検討会で議論が活発化したのは、「1学期に生徒をどのように段階的に引き上げてきたかを振り返る」という観点です。「入学時からの段階的指導を、9月の段階で教師が振り返ることは、2学期以降に学年団の指導がぶれないという意味でも重要」と意見が一致しました。その一方、「行ってきた指導を言語化できるかどうか、教師自身の力量が問われる」という声も上がりました。1学期の指導を言語化する作業を若手教師が行うことで、学校全体の指導力向上の機会とすることも出来るのではないのでしょうか。



「生きたデータ」2007年9月号を参考に、
文理選択までのプロセスを確認させたところ……

●文理選択確認シート



- 取りあえず決めていないか
- 仲の良い友達と一緒にだからという理由で決めていないか
- 教科の好き・嫌いだけで決めていないか
- 自分で考えて決めたか
- 保護者と話し合っただけで決めたか
- 文系・理系それぞれに進んだ場合の履修内容の違いを理解しているか
- 文系・理系それぞれ、どのような職業へと道が続くのかを理解しているか
- 文系・理系それぞれの進学先ではどのような学問が学べるのかを理解しているか
- 高2や高3の先輩に話を聞く機会があったか
- 自分が選んだコースには、どのような進学先(大学や短大など)があるかを知っているか

検討した結果、最終的に選んだのは (文系 理系)
保護者確認欄

私の狙い

科目の好き嫌いだけで文理を決めるといった安易な選択ではなく、多角的な視点からの選択を促したかった

取り組み内容

文理選択確認シートを活用し、保護者の確認も得て、文理を考える際の視点を押さえているかを確認した

感じた課題

文理選択の視点を生徒や保護者に確認させることは出来たが、選択する上でのこだわりやこれからの学習に対する覚悟などを読み取ることが出来なかった

「もっと響く指導」
のポイント

②

学年全体で共有する
文理選択での生徒のこだわりと課題を



1年生2学期の大きな進路イベントが文理選択です。実は、前任校で1年生を担当した時失敗をしたんです。2学期の後半、ある先輩先生から「A先生のクラスのYくんは、なぜ文系を選んだの?」と聞かれた時、私は「そう言えばそうですね…」と答えてしまい、先輩先生から「生徒把握が出来ていない」と叱られました。文理選択で押さえるべき観点は整理して伝えていたのですが、結局その生徒がどんな希望、こだわりを持って文理を決定したのかまでは把握できていなかったのです。



理系の素養を持つYくんが文系を選んだのだから、それに見合った進路のこだわりなどを担任が把握しておくべきだと先輩は思ったのでしょうか。でも、生徒の思いを十分に把握しないまま、決定を受け入れてしまうことは現実にあると思います。社会経験の少ない高校1年生がどんな理由で文理を選んだのか、そして、今後どのような努力が必要なのかについて本人がどの程度理解しているのかをチェックしたいものです。



正直、「なぜ文系(理系)を選んだのか?」と不思議に思う生徒は例年必ずいます。しかし、「本人が希望するのだから」とこちらも自分に言い聞かせ、納得させている状況です。「あれ?」と感じる選択をした生徒にどう向き合い、2学期以降どんな指導を行えばよいか、先輩方の考えを聞く場があればいいのにと考えたこともあります。



このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ダウンロードできます!

生徒指導・進路指導ツール集

ベネッセ教育総合研究所

<http://berd.benesse.jp>

生きたデータ

検索

今回のテーマと関連する過去のバックナンバーも同じウェブサイトでご覧いただけます。併せてご活用ください!

HOME→教育情報→高校向け→

生徒指導・進路指導ツール集をご覧ください

2008年10月号 1年生2学期の成績層別面談指導

2009年9月号 1年生秋の中だるみ対策と「第一歩」としての文理選択

2012年10月号 学び続ける集団をつくる1年生2学期の定期テストデザイン



「もっと響く指導」のポイントと「生きたデータ」作成改訂案

●文理選択確認シート



- 取りあえずで決めていないか
- 仲の良い友達と一緒にだからという理由で決めていないか
- 教科の好き・嫌いだけで決めていないか
- 自分で考えて決めたか
- 高2や高3の先輩に話を聞く機会があったか
- 自分が選んだコースには、どのような進学先(大学や短大など)があるかを知っているか

文理選択の最大の決定要因・一番のこだわり()

検討した結果、最終的に選んだのは(文系 理系)

これから最も力を入れて勉強すべき科目と勉強の方針

1 番目(科目名/ 勉強の方針/)

2 番目(科目名/ 勉強の方針/)

保護者確認欄

担任所感

「もっと響く指導」のために
改訂すること……



前任校では、10月に1学年団が文理検討会を行い、成績や希望大学・学部・学科などを集約した資料を見ながら、「この生徒が文系を選んだのは、数学が苦手になったという理由だけではないか？」など複数の目でチェックしていました。そして必要に応じて、「本当に文系でよいのか」「今後どんな努力が必要なのかを理解しているか」を担当が面談で確認していました。面談で押さえるポイントは検討会で確認したものです。



どんな視点で生徒の希望進路を確認し、フォローしていけばよいか、若手にとって勉強できるよい機会ですよね。入学時から数学が苦手なのに医学部を志望する生徒の指導などは、若い担任1人の力では難しいですから。学年団が一体となって確認してもらえると、とても心強いです。



ただ、多忙な時期に生徒全員の希望進路を詳しくチェックしていくのは簡単ではありません。そこで、学年団全体でチェックが必要な生徒を見抜く工夫が必要です。その観点で見直した文理選択確認シートが上のものです。文理選択の観点を整理するだけでなく、選択する上で一番自分が大事にしたこと、こだわったことを記述させ、更に今後の学習でどんなことに力を入れたいか、本人の覚悟までを聞くのです。



ここまで確認すれば、理系科目の成績が振るわないのに、理系を希望している生徒について「どんなこだわりを持った上での選択なのか」「今後の学習の見通しは立っているか」が把握できますね。「この生徒についてどう思いますか？」と先輩の先生にも相談しやすいと思います。

プラスαの検 | ポイント From 編集部

**文理選択でも
個別のフォローが
必要な生徒がいる
という前提に立つ**

今回の記事の検討会で、先生方は「なぜ文系(理系)?と疑問に思う生徒は毎年必ずいる」と口をそろえました。ただ、そのような生徒について「この先苦労するだろうと思いつつながら、本人の希望を優先する」と吐露する先生もいれば、「面談で再考を促し、希望を貫く場合でも相当の努力が必要であることを覚悟させる」という先生もあり、対応は大きく分かれました。個別のフォローが必要な生徒をそのままにしておくことがないよう、各クラスで「想定外の選択」をした生徒を挙げ、名前だけでも早期に共有する仕組みが必要かもしれません。